

ひめじょ通信



発行：第16号（年1回発行）

発行日：2021. 5. 20

広報委員：今村朋子（編集長）・中尾慶子
瀧本千紗・山下玲子

発行部数：300部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会

（一社）愛媛助産師会 会長 井伊貴子

事務局：愛媛県松山市中一万2-1

愛媛県助産師会立まつやま助産院内

E mail：ehime@himejyo.jp

CLOCMiP
レベルⅢ

アドバンス助産師 初！更新 特集

アドバンス助産師誕生から5年…ついに更新の時代へ

2015年に初のアドバンス助産師認定者が誕生し、ひめつう11号の特集で取り上げてから、早くも5年がたちました。長いようで短いこの5年間、初回の認定を受けた、愛媛のアドバンス助産師の皆さんは、その後どのようにキャリアを積み重ね、今回の更新を迎えられたのでしょうか？ 現在、活動方法の違いによって、5つの区分に分けられている更新制度ですが、その中から4つの区分*の更新者の方に取材させていただきました。今、世界でSDGs（Sustainable Development Goals）が掲げられているように、今回取材させていただいた方々のお話から、アドバンス助産師の認定が一度だけのものではなく、ずっと学び続け、さらに経験を重ね、その後も認定を維持し続けていくことの大切さを教えていただきました。私たち助産師も「持続可能な開発目標」に向けて活動を続けていくことが大切です。この取材が読者の皆さんの今後の活動のヒントになればうれしいです。（取材・編集：今村朋子・山下玲子）

*2022年以降の更新申請要件は、今回の取材で取り上げた様々な区分が一つに統合されますので、日本助産評価機構のHPでご確認ください。

目次

2020年度	
*アドバンス助産師更新特集	1~3
*休日不妊電話相談開始	3
*産後ケア特集	4~5
*2020研修・イベント報告	6~7
*ひめじょのお知らせ	8

アドバンス助産師
一般四国中央病院
中尾 慶子 さん

*初回到アドバンス助産師をとった後の実践の変化

初回の申請までの経過や準備方法があったので、今回5年目の更新については、少しずつ事前に準備ができていました。助産師は周産期医療で重要な位置にいるため、産婦さんの一番近くにいる医療者として、緊急時に対応できるスキルを身につけることが必須です。そのための知識、技術のスキルアップとして、様々な研修、ALS Oプロバイダーコース、新生児蘇生法、そして施設内で手術室と合同でおこなっている緊急帝王切開シミュレーションは日々の業務に役立っていると感じます。また、CAPSチーム(Child Abuse Prevention System -児童虐待防止組織-)では、メンタルヘルスカケアを必要とする方も増加しており、必須研修で知見を深めて、様々な背景の妊産婦の支援を行っていきたいと考えています。

個人的には、『他施設助産師との交流会』や『命の授業』など、勤務助産師としての活動の範囲や視野を広げられるように、ボランティアで地域活動をしています。

*更新しようと思った理由は？

分娩介助だけでなく、助産師外来、母乳外来、産後2週間健診、産後ケアを開設している施設で、継続的に助産師の仕事の続けていく上で、最新の情報をアップデートしていくために必要なことだと思いました。

*更新の準備は大変でしたか？

分娩介助50件以上、助産師外来、母親学級、新生児ケアなどの実践と様々な必須研修、NCPRなどの要件を

満たすために、必要な研修をピックアップして時間を見つけては、研修や学会に参加しました。当院はローリスクの妊産婦さんが多く、妊娠期の助産師外来の実践を積むうえでも、経験を積める場所であること、分娩介助が助産師主導（医療介入が少ない）という形も更新の実践内容とマッチしていました。実践に困ることはなかったのですが、コロナの影響で学級が開催できなくなっており、今後更新するうえでどのようにすれば良いかを検討しなければいけない現状です。

*認定更新のための応援体制はありましたか？

書類審査までの自部署での面接では、アドバンス助産師のことを理解し、ポートフォリオを見てくださり、面接を早期に設定してくれました。

*アドバンス助産師を更新する意味

この仕事は、常に助産診断をしていかなければならないことも多く、経過が順調でも産婦が急変したり、死産に立ち会うこともあります。アドバンス助産師を更新する意味合いは、知識と五感をフル活動させてケアを提供すること、継続的に勉強を続けることで助産師力をアップデートでき、助産師として示せる指標の一つであると考えています。知識で覚えることはもちろん大事ですが、どんなケアも五感を働かせながら、妊産婦さんや赤ちゃんに関われるように、自ら切り開ける力をつけていきたいと思っています。



アドバンス助産師
ウイメンズ

愛媛県立医療技術大学
准教授 中越 利佳 さん

★アドバンス助産師の更新に向けた思い

アドバンスの資格取得が目的ではなく、最新の知識を身につけることは、専門職として重要だと日頃から考えていたので、できれば、更新したいと考えていました。ただ、教員区分での申請は、時間的にも無理だと思いましたが、ウイメンズで申請できることを知って、これならできるかなと思いました。

★ウイメンズで更新するための要件

72時間の研修※はかなり多いです。更新まで1年くらいしかなかったのですが、半日～1日の研修を受けただけでは、時間数は足りませんでした。3日間連続の研修会が日本家族計画協会や助産師会で行われていましたので、東京や大阪まで研修を受けに行きました。移動のお金も結構かかりました。今は、オンライン研修が主流になったので、ここまで大変ではないかと思えます。

★ウイメンズヘルス区分の新設について思うこと

研究領域がウイメンズヘルス関係だったので、良かったと思えました。アドバンスに関係なく、研究領域や講

義でウイメンズヘルスに関わっているため、ウイメンズを選択することは仕事にも活かせると思えました。

★ウイメンズヘルスを研究分野としたきっかけは？

最初は、育児支援の研究を考えていましたが、他の職種の教員から共同研究の話をいただいて、子宮頸がんの研究を始めたのがきっかけです。プレコンセプションケアが最近の話題ですが、ウイメンズ領域から周産期に切れ目なくつながり、またウイメンズヘルスに戻ってくる、女性のライフサイクルに沿った分野なので興味深いです。時代の変化や多様性をふまえて、これからもウイメンズヘルスにも力を注ぐ必要性を感じます。

★教員としてアドバンス助産師を取得する意味

助産師である限り、一生学び続けなければならないと思っています。アドバンスの資格取得ではなく、学びは助産師としての責務だと思うので、教育においても学生に教えるだけでなく、日々変化する新しい知見を共に学び続けたいという思いで日々教育に関わりたいです。

※2021年度更新は108時間



アドバンス助産師
教育

愛媛県立医療技術大学
講師 井上 明子 さん

★教員としてアドバンス助産師を取得する意味

アドバンス助産師の初回認定の時は、助産の教員になって4年目くらいの時でした。はじめは現場の人がとるものだと思っていましたが、教員として、これから現場の人と同じ方向を向いて学生を教育するうえで、自分も研修を受けて、アドバンスをとることが大切だと思ったのがきっかけでした。

実際に、実習施設の指導者さんが必須研修で受けた内容を活用しながら、学生に教えてくれる場面がありました。自分も研修を受けているので、共通理解が進み、現場の人と同じ方向を向いているなと実感しました。

また、学生も助産学概論や助産管理の講義の中でアドバンス助産師について学ぶ機会があったり、実習先でも「うちにはアドバンス助産師が何人います」と説明を受けたりする中で、専攻科修了後に目指していく具体的な目標になると感じています。そのような中で、教員である自分自身がアドバンス助産師であることによって、学生たちが将来目指す姿を示せると感じています。



●アドバンス助産師の認証書とバッジを見せていただきました！
バッジも5年ごとに更新され、認証期間が終了する2025年を示す数字が刻まれています。

★教員区分での更新の難しさ

はじめから5年後の更新を目指していましたが、一般区分と比べて教員区分での研修が確立していないため、研修を受ける機会が無くて困りました。教員区分の「倫理」や「研究」の単位を取得するため、全国いろんな研修に行きましたが、期限までにクリアすることは無理だ！と思って、教員区分の研修単位が多く認められる全国助産師教育協議会（以下、全助協）の「ファーストステージ研修」に行くことにしました。

★ファーストステージ研修で感じた愛媛の実習指導力！

はじめはアドバンスの更新目的で行った研修でしたが、他県の教員と話す中で、愛媛の助産師教育について様々なことが見えてきました。例えば、学生の事前学習用に、各施設で分娩介助手順のビデオ撮影に協力していただくなど、これまで当たり前のようにしていましたが、他県の教員からは「愛媛の助産師さんすごい！そこまで教育に協力してくれるなんて」と感動されました。他にもいろいろな場面で、愛媛の臨床現場の方々の助産師教育への理解の高さなど、愛媛の助産実習の受け入れが非常に恵まれていることを実感しました。

全助協のファーストステージ研修は、1年コースですが、主に週末の金土日で年に何回か開催されるので、勤務の方も働きながら参加しやすく、教員だけでなく現場の指導者さんも全国から参加していました。教員と実習指導者が、お互いに学生の教育について理解を深め合うことができ、いい刺激になりました。コースで受けることが難しい場合は、一部公開講座もあります。助産師教育に特化した内容ですので助産学生の実習指導に携わる方には、ぜひおすすめしたい研修です。

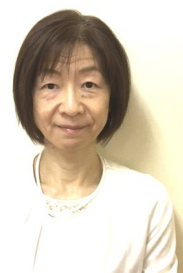
★アドバンス助産師の維持に向けて

助産師として、自己研鑽するのは当然だと思っています。次の更新の際には、新しい更新要件になるようですが、ここまできたら当然、次の更新も目指します！

アドバンス助産師
管理者

愛媛助産師会会長
松山赤十字病院
井伊 貴子 さん

以前から助産師外来をしており、妊婦健診の経験などの申請要件をクリアしやすいことや、アドバンス助産師制度発足の目的でもある院内助産もやっているの、制度自体が身近なものだったと思います。



***管理者としての更新をめざしたきっかけ**

実は、初回の認証を受けた時には年齢的にも、次の更新はないかな…とと思っていました(^_^)。でも看護協会を受講したセカンドレベルの研修が管理者としての要件に活用できたので、それなら更新しようと思い、他に必要な研修を受けて管理者の更新要件をクリアできました。

***日赤では初回の中からたくさんの助産師が認証を受けられましたよね？**

当時の係長さんが、皆に発信して積極的に認証を受けるようにと勧めてくれました。まだ院内のラダーを未達成の人もいましたが、アドバンスの申請と同時進行ですすめていったこともよかったのかもしれない。また、

***愛媛助産師会がアドバンス**

取得を支援！

会長としては、これからもできるだけ愛媛助産師会でアドバンス申請に使える研修機会を増やして、皆さんの認証をお手伝いしたいと思っています。また助産所管理者や個人開業の会員の方がアドバンスの申請・更新をされる場合は、所属する都道府県助産師会会長や評価者研修を受講した会員によって評価会を行うこととなります。このように、助産師会として開業の皆さんのアドバンスを応援する役割も果たしていきたいと思っています。

●これから申請する人も、いつか目指す人も、そうでない人も… 今すぐ アドバンス助産師プラットフォームを活用しよう！



👉こちらから「アドバンス助産師プラットフォーム」の登録ができます

これは、マイポータルサイトの管理ができる新しいシステムで、自分の実践や学びの内容を可視化することができ、施設内の評価等にも活用できます。さらにアドバンス助産師を目指すとしたら、後どのような経験・学習を積み重ねることが必要か一目でわかるすぐれものです。このツールは、申請の有無や時期に関わらず、**助産師であればどなたでも登録できます**ので、アドバンス助産師の申請を意識していなくても、**気軽に使ってみてはいかがでしょう？** 学び続ける助産師として、自分磨きの強い味方になりますよ！愛媛助産師会では、様々な研修の機会でおさまのキャリアアップのお手伝いをしていきますので、研修を受けたらプラットフォームへの入力をお忘れなく！

アドバンス助産師の認証評価を行う日本助産評価機構のHPのボタンをクリック！

使ってみた感想：研修時間がまだまだの時は気が遠くなりますが…(*_*), 入力するたびに「ここまで来た！」と、モチベーションがUP！要件に到達した時はハンパない達成感でした！(^_^)！（2021年更新予定：いまむら）

相談
事業

愛媛県委託事業 愛媛県休日不妊相談ダイヤル



相談専用ダイヤル

TEL 080-4359-8187

- 毎週土曜日 13時～17時（年末年始等を除く）
- 助産師が相談をお受けします。相談内容や秘密は厳守します。
- 通話料金のみで相談費用は無料

令和2年度から県の委託事業として、愛媛助産師会では、「愛媛県休日不妊相談ダイヤル」への対応をはじめ、令和3年度も事業が継続されています。そこで相談対応を担当されている、**田中恵美子さん（ひめじょ理事：助産院emi開業）**にお話をうかがいました。

***相談担当に向けた知識のアップデート**

相談事業の開催に向けて、愛媛助産師会では希望者に対して、不妊看護の専門家である崎山貴代先生（愛媛大学）に講義をしていただきました。歴史的背景や検査・治療、女性やカップルの心理社会的側面と支援についての知識をアップデートする機会となりました。その中で新たに学んだ「子宮内フローラ検査」について、実際に相談の電話があり、検査内容や結果に応じた治療の方向性について説明することができました。相談担当の時は毎回、崎山先生の講義資料とネットが活用できるように準備して臨んでいます。また、保健福祉部健康衛生局健康増進課で作成された「手引き」もあり、対応時間の目安など、統一した関わりができるようになっています。

***相談の実際：相談者の「自分の答え」探しを支援**

電話相談は、毎週土曜日、午後からの4時間を2名の助産師が交代で相談専用の携帯電話をもって対応しています。相談には自宅に対応しているので、家族に協力してもらい、静かに受けられる環境を作っています。1日

の相談件数は0～3件で、1回、20分を目安にしていますが、1時間かかることもあります。

相談者は、不妊治療中の方がほとんど

で、不妊治療への不安が一番多くよせられます。男性の方からの相談もありました。また、休日の無料相談ということで県内だけでなく、県外からの相談もあります。

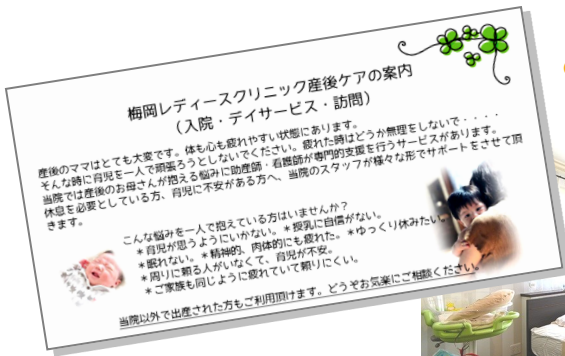
これまでの相談では、セカンドオピニオンを希望される方には、県内の指定医療機関をお伝えしたり、助成制度についての相談では、管轄する保健所をお伝えしました。また、愛媛へ転居されてきた方から、「前の居住地では相談する場所がなかったの相談できてよかった」と言っていました。担当してみて感じることは、助産院を開業してから出会った人から得られた、たくさんの経験が本当に生かされています。

難しい相談もありますが、治療に対する不安は人それぞれで、相談者さんがもっている答えを傾聴しながら、糸口をみつけていくことかなと思います。不安を相談してくる方には「自分の答え」が必ずあると思っています。それにご自身が気づき、いかに言葉にできるかを心がけて関わっています。（取材：いまむら）

**お産場
探訪**

待望の産後ケア/家族入院施設が
松山市のクリニックに誕生！

梅岡レディースクリニック：～産後ケア・家族入院編～



●産後ケアのパンフレット



●家族でもゆったり過ごせるお部屋 (クローバー)

ついに松山での公的な産後ケア事業がスタートしました。待ちに待った産後ケア施設探訪第一弾は、「梅岡レディースクリニック」をご紹介します。ひめじょ通信では、一度お産場探訪で訪れていましたが、このたび新棟を増築し、産後ケアと家族入院をはじめられたとお聞きして、再度訪問させていただきました。「アットホームで自然な形で出産を応援する」というクリニックのコンセプトと産後ケア・家族入院とどのように融合されているのか、とても楽しみです。それでは、いざ潜入～！

■■■ 取材させていただいた方 ■■■

●梅岡レディースクリニック

院長 梅岡 弘一郎 先生

開院当初から産後ケアの構想を持たれていた院長先生。「助産院のような温かみを」「産んで終わりじゃない、産後も続く支援を」という先生の熱い思いが詰まった産後ケア・家族入院について、先生自らが取材に応じてくださいました。



●主任 菊池 五月 助産師

スタッフの理解と思いがなければ実現し得なかった産後ケア・家族入院。12名の助産師と10名の看護師とともに日々ケアに携わっている主任さんに、スタッフや利用者さんの思いについてお聞きしました。



●右側が産後ケア・家族入院機能を備えた新棟です。増築部分も同じ雰囲気ですつながっていました！

◆「産後ケア」の宿泊・通所・訪問すべてを行っている梅岡レディースクリニック

つい最近まで、松山市内の産後ケア実施施設は、まつやま助産院、梅岡レディースクリニック、武田産婦人科医院の3施設のみでしたが、現在続々と実施施設が増えています。

＜松山市の産後ケア実施施設一覧 (2021年4月松山市HPより改変)＞			
施設名	利用可能なサービス		
	宿泊型	通所型	訪問型
まつやま助産院	○	○	○
梅岡レディースクリニック	○	○	○
武田産婦人科医院	×	○	×
松山まどんな病院	×	○	×
米本マタニティクリニック	○	○	×
福井ウィメンズクリニック	×	○	×
ハートレディースクリニック	○	○	×

●お知らせ●

産後ケア実務助産師研修
修了申請はひめじょから！

産後ケアに携わる実務者の質を担保するため、2020年度から日本助産師会がはじめた研修修了者の認定制度。ひめじょ会員も多くの方が認定されています。ぜひ研修を受けて、よりよい産後ケアを展開していきましょう！

*申請方法

皆さん気になる申請方法ですが、松山市のHPでは、「利用希望の7日前までに、松山市すくすく・サポート（市役所、保健所、南部、北条、中島）で申請してください。」と書かれてあります。実際に梅岡レディースクリニックでは、妊娠期から使用の予定がある方には、妊娠中の申請を勧奨されているそうです。

◆梅岡院長へのインタビュー：産後ケア事業に込められた開院当初からの深い思い

産後ケアを施設で実現するには、施設長の理念があってこそです。
そこで、院長先生に産後ケアへのホッペを伺いました！産後ケアに込められた院長先生の思いとは・・・？

*産後ケア事業を開始されたきっかけ

開院当初から「助産院のような…」というモットーがあるように、産後のお母さんへの支援（赤ちゃん同窓会など）は10年以上続いています。特に産後ケアを意識し始めたのは7～8年前、女優の小雪さんの韓国産後院利用が話題となったことです。産後院の考え方に感銘を受けたことに加えて、当院でも出産された方のメンタルヘルスについて考えさせられる機会があり、うつになる前に何かできることはないかと考え始めました。

◆菊池主任へのインタビュー

*開設までにどんな準備をされましたか？

学会の研修に参加したり、実際に産後ケアをされている施設にスタッフが見学に行ったりしました。

また、ストレスを抱えたお母さんたちを癒せるように、ストレスケアの資格をスタッフが取得したりもしています。

*産後ケアを担当されているスタッフの方は？

基本的にスタッフ全員で担当しています。訪問については、これまでに他院で経験のある助産師が主に担当しています。

*実際の利用状況を教えてください。

2020年10月に松山市から認定を受けました。現在は当院で出産された方の利用が多いですが、2月には他院からの予約も入っています（2021年1月取材時）。2020年10月までの利用は、宿泊3組、通所2組、訪問1組です。中には、「こんなサービスがあるの知らなかった。使ってみたい。」と希望があらながらも、4か月を過ぎてしまっていたため諦められた方や、費用負担について家族の理解が得られず利用に至らなかった方などもおられます。一方、こちらが「この人は産後ケアを活用した方がいい」と思っても、産後ケアは、本人からの申請がないと始まらないのが、もどかしいところです。

*実際に利用された方の声を教えてください。

「ゆっくり休むことができた」、「おっぱいが軌道に乗って安心した」、「児を預かってもらった時の様子を丁寧に記録してもらっていたのが良かった」など

*産後ケア開設までにはどんな困難がありましたか？

当初は産後入院は旅館業法になるということで、実現が難しく、2～3年前までは保険入院でできる人のみを対象とすることも考えていました。当院は、専用のスタジオやエステを行う部屋の増築を検討していたところでしたので、産後ケアでの新棟活用も考えていきました。ちょうどその頃、国でも産後ケアの方針が定まり始め、いろいろなタイミングが合い、実現に至りました。

の声が聞かれています。退院されても、フォローは続いていくので、最初の難しいところを脱して帰られることが自信に繋がっているようにも感じました。特に母乳育児支援では、外来だと児とのタイミングが合わないという難しい面もあり、デイや宿泊であれば継続してケアできるため、効果は大きいですね。

*今回新しく、家族入院できるお部屋も

できたとお聞きしました。

新棟に家族入院用の2部屋ができました。家族でもゆったり過ごせるようにスペースを確保した『クローバー（前頁写真）』と、「毎日は泊まらないけど週末は一緒に…」といったご利用もできるようソファベッドを備えた『カトレア』の2部屋です。

*家族入院のお部屋をつくれる際、気をつけられたことがあれば教えてください。

できるだけ1部屋を広く確保できるようにし、上のお子さんなどが汚してしまっても掃除がしやすいように、フローリングにしました。電子レンジは、帰りの遅い家族や上の子の食事のために絶対必要！と、スタッフの強い希望で設置しています。



●カトレアのお部屋

*どんな方のご利用が多いのでしょうか。

最近は家族入院目当てで来られる方も多く、特に新型コロナウイルスで里帰りができず、上の子の預け先がない方などからの要望があります。



♥読んでみん犬(けん)！? 「WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」

編集：分娩期ケアガイドライン翻訳チーム 発行：医学書院、2021.3

正常出産のガイドラインとして有名な「WHOの59カ条」が22年ぶりに改訂され、その翻訳本が出版されました。母子が出産で命を落とさない事だけをゴールにするのではなく、「ポジティブな出産体験」が全ての産婦にとって重要な評価指標であるという認識のもと、56項目のケアについて研究結果から「推奨される・されない」という判断がまとめられました。この「ポジティブ」という表現は、単に「満足」という指標よりもっと積極的で期待を超えるような体験でもあり達成感や自己コントロール

感を得ることまで含まれます。旧ガイドラインと同様に出産の生理的プロセスが大切にされている一方で、今回の改訂では硬膜外麻酔など産婦が望む介入時のケアについても触れられていることに時代の流れを感じました。助産師として、産婦のポジティブ（肯定的）な出産体験の実現に向けて、このガイドラインを活用して日々の実践をふりかえってみてはいかがでしょうか？

*この内容が簡単にまとめられた要約版のPDFがWEBで公開されていますので、検索してみてください。



南予
研修

「周産期に東洋医学も〜つわり・逆子・母乳」 愛媛県歴史博物館

2020.8.30 大塚素子先生（愛媛県立中央病院 漢方内科鍼灸治療室：鍼灸師）

現地開催！



昨年6月、大塚先生のお話を聞いて、とてもいいお話で「助産師会の研修会でもぜひ話をさせていただきたい」と思っていました。内容は、東洋医学の治療方法、基礎知識、そして周産期に役立つツボやマッサージの仕方、子どもへのマッサージなど関心があるものばかりでした。先生のお話はとてもわかりやすく、アンケートでも「周産期のケアにも自己の健康管理にも役立つお話でした」「実技もあったのでよりわかりやすく明日からのケアに活かそうです」など全員が「とてもよかった」と回答していました。90分という時間でしたがあつという間に過ぎて「もっと話が聴きたかった」「もっと実技もしたかった」という思いです。コロナで開催できるか心配しましたが、無事開催できてよかったです。（南予地区長／萩山医院：坂本都志江）



● 実物に触れて体験できることが現地開催の強み！

秋季
研修

「周産期メンタルヘルスクア〜産後うつ予防と支援〜」

2020.9.27 新井陽子先生（北里大学看護学部 准教授：助産師）

Online



今回はZoomを使用したリモート講演でした。コロナ禍ならではの最近のスタイルで、慣れない操作に戸惑いつつ、私達が職場で直面している「産後うつ」をテーマに、新井先生が熱意あるお話を下さり、自宅に居ながら集中して聴くことができました。

メンタルヘルス不調の妊産婦の対応には、妊娠中からの情報収集の重要性、スクリーニングの必要性、医療・保健・福祉の連携が大切であること、EPDS等3つの質問紙によるスクリーニングについて、精神状態をアセスメントするための方法を詳しく教えていただきました。また、両親学級での産後うつの情報提供は、夫婦の会話を増やし、夫の育児参加を促す良い機会になると思います。今後活かせる学びとなりました。

私が勤務する松山赤十字病院でも産後うつのケースは多く、「児が可愛く思えない」「眠れない」など母子の安全が危惧される時、再入院という形を取らざるを得ないこともあります。そして、院内の他職種連携はもちろん、他機関や地域との合同カンファレンス等も日常的に行っています。しかし、背景も状況も病態も様々で全く同じケースはなく、私達助産師もその都度対応を考え、悩み、試行錯誤しながら支援している現状です。急性期病院ではありますが、今後産後ケア事業も導入予定とし、時代のニーズ、母子の安全と安心に応える支援を模索していきたいと考えます。新井先生、貴重なお話をありがとうございました。（松山赤十字病院：黒川由美子）

東予
研修「地域における災害時支援 どう動き、どう繋いでいくか
〜避難所でお産に遭遇 どう対応する?〜」

2021.1.30 礪山 あけみ 先生（日本助産師会災害対策委員長）

Online



● 礪山先生のテンポのいい講義と興味を引き付けられるクイズやワークに充実の研修でした！

東日本大震災から10年が経過しました。いざという時に対応するためには、日頃から助産師1人ひとりが災害支援に対する意識を高め、どんな状況においても母子に対してきめ細やかな支援が求められます。

この研修で一番盛り上がったのは、「避難所で分娩を行う」をテーマに行ったグループワークです。画面越しではありますが、久しぶりに顔なじみの助産師仲間会い、楽しい雰囲気でも盛り上がっていました。グループワークから出た意見の中で印象に残った3つをご紹介します。

まず、「アルミホイルの芯で児心音を聴く」という発言があり、発想の豊かさに驚きました。次は、まつやま助産院、武智院長の「助産師は道具がなくてもお産はできる」という発言です。そうだ！助産師はお母さん赤ちゃんに寄り添い、五感を使えばいいのです。そのためには、常日頃から私

たちは知識と五感を磨かなければいけないのだと反省させられました。さすが開業助産師！運営のメンバーみんなで「かっこいい」を連発していました。最後は、「避難所での産で助産師として大事なことは？」の問いで、「産婦への精神的な支援が大事だ」という意見です。避難所での産は産婦にとって、被災しただけでなく、自分の思ったお産ができずとても辛い体験になります。産婦を労い静かに傍に寄り添うことや、少しでも安心して心を落ち着かせるための支援は助産師にしかできないのではないのでしょうか。

私たちは、日々の助産ケアに災害時の視点を加え、日頃から助産力を高めていくことが災害時に力を発揮することにつながることを感じました。

（東予地区長／県立今治病院：福増理栄子）



● スマホで、グループワークのディスカッションに奮闘する教育委員の橋本さん。会話が盛り上がり、とても楽しそうでした。

子育て支援

コロナ禍の中でのイベント・子育て支援

年2回の開催が恒例のパパママほやほや子育てセミナーは、感染状況が少し落ち着いていた2020年9月の1回だけ開催することができました。(スタッフはマウスシールド着用) コロナ禍で様々なイベントや子育て支援活動が中止になる中、このイベントは、久しぶりに子育て中のパパママが互いに触れあう貴重な機会になりました。



東予ひめじょ広場「ふわふわ」
新たな方法を模索しながら開催中！

毎月、東予の助産師が妊娠・子育て相談をしている「ふわふわ」も、コロナ禍で休止になる時もありますが、県内の感染状況を見ながら可能な範囲で開催しています。新たにInstagramを開発して情報発信にチャレンジ中！広場が開催できない時は、Instagramでお悩みや相談を募集して回答しています。

📍開催日はひめじょHP、
ふわふわInstagramで
ご確認ください。



📷 [fuwafuwa.himejo](https://www.instagram.com/fuwafuwa.himejo)
でインスタをチェック！

まつじょ教室

助産学生の出産準備クラスは **オンライン+現地開催** のハイブリッドに挑戦！

毎年、1月のまつやま助産院での「お産」と「母乳」の教室は、愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科の学生が特別クラスとして開催しています。しかし今年は、コロナ禍の中で通常通りの開催は難しく、大学とまつやま助産院をZoomでつなぎ、リアルタイムかつ参加型の教室運営に挑戦しました。妊婦さんの参加は3人限定として、助産院に集まっただき、教室担当の助産師さんと教員1名が

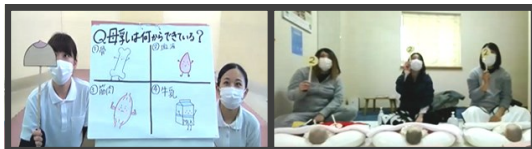
現地でサポート。主催の学生は大学からクラスを運営するという、オンライン+現地開催の形をとりました。

開催までは、何度もZoomのリハーサルをして、画面写りや視線を確認しながら準備を重ねました。当日は、お産劇や母乳劇などの学生らしい内容や、クイズや授乳の演習も取り入れ、一方的な講義ではなく参加型・体験型の企画をオンラインでおこないました。ITに強い学生の力を最大限に発揮した新たな挑戦は、これから様々な形での教室開催の可能性を広げてくれるものでした。(いまむら)



Online
+
現地開催!

●画面に映るように参加者の名札を机の前に立てる工夫！



●参加者はスクリーン越しに
学生とつながりました。



●教室担当の助産師さんと
開催学生で記念撮影！

さんばの日

「安産福運大祭 母子と助産師の日」オンライン配信！ 令和3年3月8日 高忍日賣神社

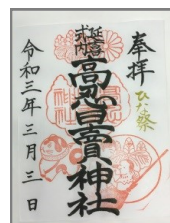
昨年は、コロナのために開催できなかった「母子と助産師の日」の行事ですが(神事ですので、お祈りの神事は昨年も神社関係者の方のみで行われております)、今年は密を避けて少人数で開催することとなりました。そして、初めての試みとなるオンライン中継も！

はじめに村松志保子助産師顕彰会の岡本喜代子副会長から、神社の由来や神事の始まりなどの開催にあたってのご挨拶の映像を配信した後、神事開催の運びとなりました。愛媛助産師会からは井伊会長が玉串をささげました。また岡本先生のはからいで、助産師のこれからを担う学生の代表として、今回、特別に参加させていただいた医療技術大学の助産学生も玉ぐしをささげる大役を担わせていただきました。

今回、オンライン中継によって、全国から多くの助産師さん、助産学生さんが参加してくださり、なんと海外からの参加もありました！チャットには「遠くにいながら参加させていただいて、感謝しております」「Thank you very much……Midwifery Festival」とメッセージを書き込んでくださいました。(ひめじょ広報委員:今村朋子)



●顕彰会理事・ひめじょ理事・助産学生が参列しました



📍さんばの日
にちなんで、3
月
限定の御朱印は
「帯と母子」の
復刻版の印が押
されます！さら
に戌の日に行く



理事会 新理事・監事メンバー紹介！

2020年は役員改選の年でしたので、新理事メンバーでスタートいたしました。理事会もZoomが定着し、現地&オンラインのハイブリッド開催※したりと頑張ってます。(※車のことなく、両方の方法を使うことを最近の用語でハイブリッドというらしいです)



オンライン研修の舞台裏



●今年から開始したオンライン研修は、運営側にとってこれまでと全く違う開催方法で、わからないことの連続でした！まずは、教育委員長の永山さんがZoom運営の研修を受けるところからスタート。次はオンラインの申し込み設定やお知らせ、名簿や修了証の発行ををどう

オンライン地区会



●オンライン東予地区会でメンバーと記念撮影！

するか…考えることは山のようにありました。リハーサルを何度もしましたが、実際はやってみないとわからない事ばかり。研修当日も司会・参加確認、グループ振り分けなど、裏側はバタバタです。会員の皆さまにもご迷惑をおかけしていると思いますが、参加する皆さまの方が先に慣れてくださり、ついに令和3年はZoom総会を開くまでに成長しました！皆様の参加に心から感謝します。

●ウェルカム ひめじょコーナー●

ひめじょへようこそ！ひめつう15号掲載以降に新規入会や他支部より転入された会員の皆さまを紹介します。

◆中予地区（4名）

◆東予地区（2名）

◆南予地区（1名）

ご入会ありがとうございました！

●新入会員の皆様 & アドレスが変わった会員の皆様へ ~ひめじょメール登録のお願い~

愛媛助産師会では、**会員専用のひめじょお知らせメール**を運営しています。研修情報を事前に配信しますので、登録しておけば研修の申し込みもラクラク！災害時の安否確認システムとしても重要なツールになりますので登録にご協力ください。

ひめじょ-おしらせ

●登録方法 himejyo-oshirase@mamail.jp に 空メールを送信してください。

- *右のQRコードを携帯で読み取ると面倒なアドレス入力が不要です。
- *必ずいつもご覧になるアドレスを登録してください。

●携帯の迷惑メール防止機能による削除が多くなっています！

【@mamail.jp】が受信できるよう**再設定**のうえ登録をお願いします！

*設定を簡単に行うには、携帯からコチラにアクセス！→<http://www.mamail.jp/ds/>

●登録がうまくいかない場合は… 事務局 ehime@himejyo.jp にご連絡ください。



入会用のQRコードです。これで簡単に登録してネ！すでに登録済の人も、自分の登録状況が確認できますヨ！



★ 新入会手続きのご案内

(社)日本助産師会への入会をご希望の方は、以下のいずれかの方法で愛媛助産師会を通じて手続きをなさってください。

- ①研修会の時などに書類と会費を持参する
- ②書類郵送/会費を振り込む(右の連絡先へ)
- ③愛媛助産師会理事に直接渡す

*入会金について：入会手続きを希望される方は、初年度のみ入会金1万円を含む30,000円が必要です。次年度からは年会費20,000円が自動引き落としになります。(学生の賛助会員から正会員に移行の方は、入会金は不要です)

(一社)愛媛助産師会 事務局 連絡先

- 住所：〒790-0804 愛媛県松山市中一万町2-1 愛媛県助産師会立まつやま助産院内
- TEL/FAX：089-945-6757
- Email：ehime@himejyo.jp
- 振込先：ゆうちょ銀行 16140-2281641 (口座名義) 日本助産師会愛媛県支部

編集後記

ひめじょの皆さま、お互いになかなかお会いできない日々が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？コロナの感染拡大によって、あっという間に様々なことがオンライン化されました。今や、それがないと何も活動ができない状況にまでなっています。ITにはめっぽう弱いひめじょ理事のメンバーも、必死でZoomやらPeatixやらのしくみを勉強し、無事に研修を開催して会員の皆さまとつながるまでにはなりました。そのなかでも「すごい!!」と思ったのは、大先輩の方々がオンラインの研修に頑張ってお参加してくださっていることです。「はじめて」のオンライン申込、初めてのZoom、初めての「👏手あげ」…、新しいスタイルの波に乗り遅れず、学びを続ける姿勢に感銘を受けました。尊敬します。早く、直接会って、笑って、過ごせる日が来ますように。(編集長 いまむら)

